

## 【令和2年度 政策・調整会議】

件名：市域の再生可能エネルギー利用拡大に向けた廃棄物発電の更なる有効活用の検討の方向性について

日時：令和3年2月3日（水）10：30～10：32

場所：第3庁舎18階 大会議室

### ●付議理由

橘処理センターが稼働を開始し、本市廃棄物処理施設の発電能力が飛躍的に増大する令和5年度を目途に、廃棄物発電の有効活用をきっかけとした再生可能エネルギー利用拡大に向けた取組を一層推進するため

### ●付議概要

今年度実施した廃棄物発電の有効活用方策に関する調査検討結果等を踏まえ、市域の再生可能エネルギー利用拡大に向けた廃棄物発電の更なる有効活用の検討の方向性について報告を行う。

今後、この方向性を基に、市と民間事業者が連携した効果的な手法（地域新電力会社等）を具体化するため、事業の条件整理としてサウンディング型市場調査を行い、民間活用推進委員会専門部会、パブリックコメント手続を経て、事業計画を策定する。

#### 1 背景

- ・令和2年11月に脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」策定しており、同戦略では、先導的に進める取組の1つとして位置づけられている。
- ・国においても、2050年の温室効果ガス排出量を実質ゼロにする方針を発表し、温室効果ガスを発生しない再生可能エネルギーの主力電源化に向けて取組が加速することが想定される。
- ・本市は、廃棄物発電をはじめ、再生可能エネルギー及びエネルギーマネジメントで高いポテンシャルを有している。
- ・このような状況を踏まえ、本市においても、環境先進都市として、需要・供給の両面から再生可能エネルギーの利用拡大を図り、イノベーションを誘発することが重要である。

#### 2 検討の方向性

- ・国の動向や社会状況等を踏まえると、需要・供給の両面から再生可能エネルギーの利用拡大を図ることが重要である。
- ・廃棄物発電という安定的な再生可能エネルギー等を有する本市のポテンシャル、サウンディング型市場調査結果、他都市事例等を踏まえ、市域の再生可能エネルギーを拡大する効果的な手法の検討が必要である。
- ・橘処理センターが稼働を開始し、本市廃棄物処理施設の発電能力が飛躍的に増大する令和5年度を目途に、市域の再生可能エネルギー利用拡大に向けた取組を一層推進するため、小売電気事業（地域新電力会社）等の民間活用も含めた効果的な手法について、具体的な検討を進める。

●結論

報告内容について確認。